



会社名 J.フロント リテイリング株式会社
 コード番号 3086
 代表者名 代表執行役社長 小野 圭一
 お問合せ先 コーポレートコミュニケーション室
 TEL 03-6865-7621

2024年6月度 J.フロント リテイリング 連結売上収益報告（IFRS）

1. セグメント別売上収益（売上高）（対前年増減率：％）

	売上収益(IFRS)		(参考)総額売上高	
	6月度	上期累計	6月度	上期累計
百貨店事業	19.3	16.6	20.4	17.3
SC事業	14.8	11.9	21.0	16.4
デベロッパー事業	▲ 5.6	▲ 0.3	▲ 5.6	▲ 0.3
決済・金融事業	3.0	▲ 0.4	3.0	▲ 0.4
その他	▲ 14.5	▲ 17.7	▲ 14.4	▲ 17.5
連結合計	11.3	9.2	17.9	14.7

※注) 1. 当社は2017年3月から国際会計基準(IFRS)を任意適用しています。
 2. 総額売上高はIFRS売上収益のうち「百貨店事業」の消化仕入取引を総額に、「SC事業」の純額取引をテナント取扱高（総額ベース）に置き換えて算出しています。
 3. 各セグメントの対前年増減率は、それぞれを構成する事業会社の単純合算により算出しており、セグメント内消去を含みません。
 4. 新所沢PARCOは、2024年2月末日をもって営業を終了しました。

2. 事業別の概況

1) 百貨店事業

- 6月度の売上高は、気温の上昇に伴いパラソル、サングラスやUVケア商品などが活発に動き、ラグジュアリーブランドや化粧品も好調を持続した。また外商売上も対前年2桁増となるなど好調に推移し、休日数も対前年+2日増であったことなどから、大丸松坂屋百貨店合計では対前年20.0%増、関係百貨店を含めた百貨店事業合計では同20.4%増となった。
- 大丸松坂屋百貨店の免税売上高は、対前年133.0%増（客数同93.5%増、客単価同20.4%増）となった。大丸松坂屋百貨店の国内売上高（免税売上の本年・前年実績を除く）は対前年9.0%増であった。
- なお大丸松坂屋百貨店の7月度の既存店売上（法人・本社等を除く）は、ラグジュアリーブランド、美術宝飾品、化粧品が大きく売上を伸ばし、クリアランスセールも堅調に推移していることなどから、15日までの累計で対前年13.2%増で推移している。
- 7月度の免税売上高は対前年121.9%増（客数同88.0%増、客単価同18.1%増）、国内売上は同2.4%増で推移している。

2) SC事業

- 訪日外国人客の取り込み強化、前年からの改装効果などにより、全店で20.7%増（既存店24.0%増）となった。
- 16店舗中14店舗が前年実績を上回った。特に訪日外国人客の取り込みの効果が大きかった心齋橋PARCOは7割超、渋谷PARCOは5割超の大幅伸長となった。

3) デベロッパー事業、決済・金融事業、その他

- デベロッパー事業は、パルコスペースシステムズが増収であったものの、J.フロント建装が前年のホテル内装工事好調の反動により減収となり、全体でも減収となった。
- 決済・金融事業のJFRカードは、加盟店手数料、割賦販売手数料の増加などにより、増収となった。
- その他は、卸売業の大丸興業が、電子デバイスが好調であったものの、自動車部品、産業資材の不調などにより減収となり、全体でも減収となった。

【お問合せ先】 J.フロントリテイリング株式会社 コーポレートコミュニケーション室
 IR推進担当 TEL 03-6865-7621
 グループ広報担当 TEL 03-6865-7616

2024年6月度 百貨店事業 営業報告(総額売上高)

1. 売上高および入店客数 (対前年増減率：%)

	6月度		上期累計	
	売上高	入店客数	売上高	入店客数
大丸 心齋橋店	33.7	28.7	41.6	27.8
大丸 梅田店	15.3	8.8	9.8	5.3
大丸 東京店	14.5	6.0	11.3	3.4
大丸 京都店	27.4	4.0	27.4	1.5
大丸 神戸店	13.5	8.0	11.3	4.6
大丸 須磨店	1.0	0.1	▲1.2	▲1.4
大丸 芦屋店	0.1	5.7	0.7	5.0
大丸 札幌店	25.9	5.1	19.8	▲0.2
大丸 下関店	▲8.4	▲0.1	▲3.9	▲1.9
松坂屋 名古屋店	15.4	12.5	9.5	6.4
松坂屋 上野店	12.0	6.0	7.7	6.5
松坂屋 静岡店	6.3	1.2	1.9	1.3
松坂屋 高槻店	3.4	9.6	2.5	7.6
店 計	19.1	9.1	16.7	6.0
法人・本社等	49.0	-	29.3	-
大丸松坂屋百貨店合計	20.0	9.1	17.2	6.0
うち商品売上高	19.8	-	17.0	-
うち不動産賃貸収入	24.6	-	21.8	-
博多大丸	26.8	3.8	21.0	6.6
高知大丸	10.2	1.2	1.9	▲0.4
百貨店事業合計	20.4	8.7	17.3	6.0

2. 大丸松坂屋百貨店 商品別売上高 (対前年増減率：%)

	全店計	
	6月度	上期累計
紳士服・洋品	7.4	1.6
婦人服・洋品	27.2	27.2
子供服・洋品	10.2	2.3
その他の衣料品	▲12.5	▲9.0
衣料品計	24.0	23.1
身 回 品	12.4	8.5
化粧品	19.7	27.8
美術・宝飾・貴金属	36.9	22.0
その他雑貨	▲19.7	▲17.4
雑 貨 計	26.0	22.0
家具	▲7.2	▲10.0
家電	28.8	4.0
その他の家庭用品	14.4	8.9
家庭用品計	8.9	4.0
生 鮮	1.2	0.9
菓 子	5.2	2.3
惣 菜	4.0	4.0
その他食料品	▲0.5	▲5.1
食料品計	3.0	1.3
食堂・喫茶	11.8	7.1
サービス	14.4	3.5
そ の 他	70.6	26.6
合 計	19.8	17.0

3. 営業概況

- ・ 婦人服・洋品は、名古屋店の大型改装による売場面積縮小のマイナス影響があったものの、ラグジュアリーブランドが引き続き売上を牽引した。紳士服・洋品は、気温上昇に伴いジャケットやカジュアルシャツなどが2桁増となるなど好調に推移し、対前年プラスとなった。身回品では、インバウンド需要が高いアクセサリーやハンドバッグが好調を持続したほか、パラソルやサングラスなどのUV対策商品が活発に動いた。雑貨では、化粧品の好調持続に加え、外商売上の好調などにより、宝飾品が大きく売上を伸ばした。食料品では、例年と比較して梅雨入りが遅れたことにより、6月前半に入店客数が増加したことなどから、対前年プラスとなった。

2024年6月度 パルコ店舗 テナント取扱高報告

※「テナント取扱高」とは、パルコ店舗におけるテナント取扱高(売上)の合計値で、前年の値も同じ基準で集計いたしております。

1. 店舗別テナント取扱高(対前年増減率：%)

	6月度	上期累計
札幌PARCO	30.2	26.8
仙台PARCO	12.3	9.1
浦和PARCO	14.8	14.5
池袋PARCO	15.3	18.3
PARCO_ya上野	7.2	7.9
ひばりが丘PARCO	▲0.3	▲5.2
吉祥寺PARCO	6.7	2.7
渋谷PARCO	50.5	43.8
錦糸町PARCO	13.8	11.3
調布PARCO	5.6	3.7
松本PARCO	▲22.8	▲23.2
静岡PARCO	11.1	4.6
名古屋PARCO	25.1	21.4
心齋橋PARCO	72.5	53.7
広島PARCO	17.6	8.2
福岡PARCO	19.4	13.8
全店計	20.7	16.2
既存店計	24.0	19.4

※注) 1. 新所沢PARCOは、2024年2月末日をもって営業を終了しました。
2. 既存店計には、新所沢PARCOの前年実績値を含みません。

2. アイテム別テナント取扱高(対前年増減率：%)

	全店計	
	6月度	上期累計
衣料品	17.6	10.3
身回品	24.3	18.4
雑貨	33.1	29.9
食品	▲5.2	▲5.6
飲食	15.4	10.4
その他	21.2	21.9
合計	20.7	16.2

3. 営業概況

- 訪日外国人客の取り込み強化、前年からの改装効果などにより、全店で20.7%増(既存店24.0%増)となった。16店舗中14店舗が前年実績を上回った。特に訪日外国人客の取り込みの効果が大きかった心齋橋PARCOは7割超、渋谷PARCOは5割超の大幅伸長となった。
- アイテム別では、雑貨については、33.1%増と前年を大きく上回り、アニメやゲーム系コンテンツのキャラクター雑貨が心齋橋PARCO、名古屋PARCO、仙台PARCO、渋谷PARCOを中心に好調だった。食品については新所沢PARCO閉館の影響が大きく▲5.2%のマイナスとなった。